

2007年

核兵器のない世界にむけて

緊急に新たな行動を

キッシンジャー元国務長官など米政界の長老政治家4氏がアメリカのリーダーシップによる「核兵器のない世界」実現を呼びかける論説をウォールストリート・ジャーナル紙1月4日付に発表した。

いま世界は、北朝鮮の核兵器保有宣言やテロ集団の大量破壊兵器入手の懸念などに直面している。米ソ超大国が核抑止のもとで均衡した状況とは異なり、事態は戦略的に冷戦期よりも危かしく、経済的により高価なものとなりつつある、と論説は危機意識を強調する。

このような状況下、核兵器への依存を地球的規模で逆転させて、「核兵器が世界への脅威であることを最終的に止めさせる」ために、「アメリカの指導性が必要とされる」——論説は米支配層の指導者たちにこう訴えかけた。

執筆者は次の通り。ジョージ・シュルツ：国務長官、1982－89年。ウィリアム・ペリー：国防長官、1994－97年。ヘンリー・キッシンジャー：国務長官、1973－77年。サム・ナン：元上院軍事委員会委員長。

シュルツとキッシンジャー両氏は共和党政権、ペリー氏は民主党政権の閣僚であった。ナン氏は民主党上院議員であった。米政界長老の超党派の共同作業であることに注目したい。ペリー氏は「非核の政府を求める会ニュース」06年7-8月号の〈核兵器をめぐる世界の動き〉欄で紹介した「ブリクス報告」の執筆者の1人でもある。

以下、この論説の冒頭部分のほか、当面の具体策についての勧告を抄訳で紹介する。原題：A World Free of Nuclear Weapons。

(藤田 俊彦)

* * *

核兵器は今日、われわれに途方もなく大きな危険を突き付けていると同時に、歴史的な好機を与えている。世界をつぎの段階へと導くために、具体的には地球的規模の核兵器依存を逆転させる堅固なコンセンサスへと導くために、アメリカの指導性が必要とされるであろう。このコンセンサスは、核兵器が潜在的に危険な主体の手中に落ちることを防止し、また、核兵器が世界への脅威であることを究極的に終らせるうえで、決定的な貢献となるであろう。

核兵器は、かつての冷戦期において、抑止の手段であるがゆえに国際安全保障の維持のため必要であった。冷戦終焉にともない、米ソ相互抑止のドクトリンは時代遅れになった。しかし、抑止は、多くの国にとって、いまなお他の国からの脅威との関連で考慮の対象となっている。だが、このような目的の核兵器依存はその危険性をますます強めつつあり、またその有効性をますます弱めつつある。

北朝鮮は最近、核実験を行った。イランは潜在的に兵器級までのウラン濃縮の計画を停止することを拒否した。これらの出来事は世界がいまや新しい危険な核時代

の崖っぷちに立っていることを浮き彫りにした。そのうえ、きわめて憂慮すべきこととして、非国家テロリストが核兵器を手にする可能性が強まりつつある。核兵器をもつ非国家テロリストは、概念的には、抑止戦略の枠外にあり、また新たな安全保障上の難問を提起している。

このテロリストの脅威を別として、緊急に新しい行動を起こさないかぎり、アメリカはまもなく新たな核時代——かつての冷戦期の抑止よりもさらに危なかしいうえに、心理的に方向感覚を失わせ、経済的にさらに高価となる新たな核時代——に突入することを余儀なくされるであろう。われわれが、世界的規模で増加しつつある潜在的な核兵器保有敵との間で、核兵器使用リスクを顕著に高めることなくかつての米ソ間「相互確証破壊」を複製することに成功できるか否かは、きわめて不確かである。

新しい核兵器国は、冷戦期を通じて核兵器にかかわる事故や誤算、無許可発射の防止のため実施された、長い年月をかけて積み上げられた保障措置の恩恵に与っていない。アメリカとソ連は致命的には至らなかった多くの誤りから学習した。米ソ両国は、冷戦期を通じて、意図的にせよ偶発的にせよ核兵器が使われないよう保証するために、一生懸命努力した。新しい核兵器国および世界は、今後の半世紀において、冷戦期のわれわれほどに幸運でいられるであろうか。

* * *

まず、核兵器保有国の指導者との間で、核兵器のない世界という目標を共同の事業にするための集中的な作業が欠かせない。こうした共同作業は核武装した北朝鮮やイランの出現を回避するためすでに始められている努力にあらたな影響力を及ぼすであろう。

核の脅威のない世界にむけての合意の地ならしとなる一連の緊急な措置として、以下の項目があげられる。

- (1) 核兵器の緊急発進体制の解除など旧冷戦体制の変更。
- (2) すべての核兵器国による核軍備の実質的削減の続行。
- (3) 前進配備むけ短距離核兵器の廃棄。
- (4) 包括的核実験禁止条約（C T B T）批准にむけて上院における超党派協議の開始。
- (5) 核兵器および兵器級プルトニウム／濃縮ウランの世界的規模の安全確保。
- (6) 核供給国グループと国際原子力機関の活用を通じてのウラン濃縮の管理および原子炉用ウランの安定供給。
- (7) 兵器用核分裂性物質の世界的生産禁止。高濃縮ウランの民生用使用の段階的廃止。
- (8) 新たな核兵器国の出現につながる地域的対決／紛争を解決する努力の強化。

「核兵器のない世界のビジョンおよびこの目標の達成にむけての実際的な諸措置をふたたび主張することは、アメリカの道徳的遺産と合致する大胆なイニシアティブである」「われわれは核兵器のない世界という目標の設定およびその目標を達成するため必要とされる行動への精力的取り組みを支持する」。

□